学校番号	３０１７

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	１年前期
校内名称	世界史Ａ			ユニット数	１年前期 1.5	必選別	必修
使用教科書	「要説世界史」　（山川出版社）						
副教材等	最新世界史図説　タペストリー　（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「世界史を学ぶ」ということは、いろいろなところに「とっかかり」を持つことでもある。本を読んでも、音楽を聴いても、テレビを見ても、あるいは美術館に行っても、世界史を知っているかどうかで、そのおもしろさは大きくかわってくる。様々なことに興味が湧き、人間としての幅を広げることにもつながる。また、現在、世界で起こっている出来事に対する理解も深まるはずである。歴史科目はどうしても「暗記」だと思いがちだが、名前だけを覚えても意味はないし、第一、おもしろくない。歴史を流れとして捉え、起こった出来事の背景や原因、影響などを考えながら授業を受けてほしい。歴史に関する本を読むことも、世界史への理解を深めるのに役立つ。小説でも世界史関連の本がたくさんあるので、まずは読みやすいものから始めてみるのもよいだろう。

2　学習の到達目標

1 年後期からの世界史では、時代区分的に古代と呼ばれる範囲を地域を変えながら学ぶ。中国、インド、地中海の西側一帯のオリエント、ギリシア・ローマ、を学ぶ。その中で、秦・漢帝国、マウリヤ朝、アケメネス朝ペルシア、ローマ帝国などの具体例に触れ、古代の時代が「大帝国」というキーワードでくくれること、地域は異なっていても古代共通の制度や事件があることを学びつつ、歴史は比較検討する学び方もあることを知る。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学習に取り組んでいる。	現在の世界で起こっている問題を、歴史的な観点から考察し、公正に判断して、それを適切に表現する。	世界の歴史に関する様々な資料から、必要な情報を選択し、活用する。	世界の歴史についての基本的な知識を身につけ、地理的な条件や日本の歴史と関連付けて理解する。
評価方法	授業態度(積極的に参加しているかなど) 「世界史 興味・関心 Sheet」の提出	授業態度(質問に対する答えなど) 定期考査 「世界史 興味・関心 Sheet」の提出	「世界史 興味・関心 Sheet」の提出 定期考査	授業での発言 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点９５％程度、平常点５％程度です。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1年　後期中間考査まで		・文明のあけぼの ・中国古代史 　中国の古代文明(黄河文明など) 　殷・周(都市国家から領域国家へ) 　秦・漢(中国の古代帝国) ・古代オリエント 　シュメールからアッシリア 　アケメネス朝(オリエントの古代帝国)	○			○	a: 授業で積極的に発言し、ノートを写す際も、自分なりに工夫する。 d: 基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 定期考査
1年　後期期末考査まで		・地中海の古代文明 　古代ギリシア 　古代ローマ ・インドの古代文明 　インダス文明 　マウリヤ朝の成立		○	○	○	b：学んだ知識を現在の世界と結びつけて考察する。 c：「興味・関心 Sheet」で、資料を活用し、かつ、自分の考えや判断を表現する。 d：基本的な用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 世界史「興味・関心sheet」 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○を付けている。